

平成29年度 常葉大学附属 橘中学・高等学校 学校評価

※1【自己評価の平均スコア】 専任教員（68名）による4段階（1～4）の自己評価スコアを平均した値
 ※2【項目別の評価の基準】 第2回自己評価平均が3.30以上…A 2.70～3.29…B 2.00～2.69…C 1.99以下…D
 ※3【要素別の評価の基準】 ※2の評価をもとに判定

No.	評定要素	評価項目	自己評価の平均スコア※1		変化 ②-①	項目別の評価 ※2	要素別の評価 ※3	教員自己評価に記述された評価の根拠や今後の留意点 (抜粋)	学校関係者評価委員の意見
			第1回 ①	第2回 ②					
1	教育職員としての自覚	1.所属校の教育目的・教育目標、教育方針の理解	3.33	3.42	0.09	A	A	1.教育方針等だけでなく、生徒募集も常に意識している者が目立った。 2.行動、言葉遣い、服装に注意している者が大半であるが、一部の若い教員に課題がある。 3.若い教員を中心に学校の研修だけでなく駿台・ベネッセの授業力向上や、リーダー研修、教育支援の研修に熱心に参加した。	・校外生徒指導時、教員自ら地域の方々への挨拶を実践し、生徒たちへの良い見本となっているので続けてほしい。 ・教員は常に自己研鑽に励むことが法令等に記されているが、先生方が自発的に研鑽に励んでいるのはとても良い。ただ、指導法、教材開発等教科教育に関する研修については、学校として組織的に、かつ定期的に行える体制ができるとうい。 ・教育目的・教育目標、教育方針の理解評価が上がっていることは良い。若い教員のレベルアップのために自主的に研修に参加できる環境整備に引き続き取り組んでほしい。
		2.教育職員としての品位・礼節	3.37	3.42	0.06	A			
		3.教育力向上のための積極的な取り組み	3.12	3.07	-0.05	B			
2	勤務状況・勤務態度	1.学務および事務的業務の確実性	3.20	3.32	0.12	A	A	1.期日を守って業務を行う意識が高い。 2.個人情報遺失の事件は発生しておらず、日々の貴重品管理徹底により校舎内での金品の遺失も発生していない。ただし、部活動中のグラウンドでの貴重品管理について課題がある。 3.主任らの協力姿勢が顕著であるが、自分の業務に手一杯で協力ができないことを嘆いている者も少なくない。 4.職務への責任感が強く評価が高いが、多忙なため工夫や改善にまで至らないとする者もいる。	・責任を持ってとり区でいることが伝わる。多忙で時間的にも精神的にも余裕のないことが多いと思うが、無理のない範囲で進めてほしい。また、教員の業務負担軽減を検討した方がよい。 ・それぞれの立場でまじめに取り組んでいると思う。 ・他校同様多忙であることについては、個人の資質能力に委ねるだけでなく、学校として組織的に改善を図ると良い。常葉大学は県教委と提携して、多忙化解消のためのプロジェクトに取り組んでおり、大学と連携することも第一歩になるだろう。 ・形骸化した業務等は見直し、少しでも教員の業務量の軽減を検討してほしい。
		2.情報管理および貴重品管理	3.45	3.61	0.16	A+			
		3.他の職務・領域への協力的姿勢	2.98	2.97	-0.02	B			
		4.自己の職務への責任と改善	3.25	3.31	0.05	A			
3	学校運営 分掌課長、学年主任、科・コース主任、教科主任	1.教育目的・目標・方針に沿った企画・運営	3.41	3.48	0.07	A	A	1.方針を意識して企画を着実に実行した者が大半だった。 2.今年は特に、主任からの新しい企画の提案が多く、実現に向けて動き始めた年度であった。 3.部下との打ち合わせを数多く重ねるなど良いものを作る努力をした者が大半であった。 4.立場を理解した上で主体的に会議へ参加している。意見や提案も多く、ポトムアップの流れが醸成されてきた。	・教職員、生徒が新校舎施設等に慣れ始めた今こそ、今までにない橘らしいカラーを打ち出してほしい。 ・学校運営についてアイデアを出し合い、改善に努めている様子が読み取れ、とても良い。ただ学校運営は、チームとして取り組むべきものである、「大半」を「全員」に向けては何か課題で、課題の達成には、どのような方法が取る得るのか検討することも必要だ。 ・新しい企画の提案等、これからも、橘高校だからこそできる企画・運営を心がけてほしい。
		2.新しい企画や工夫・改善策の提案	3.23	3.14	-0.08	B			
		3.職務全般の掌握とリーダーシップ	3.09	3.10	0.00	B			
		4.会議等への積極的な参加	3.36	3.48	0.11	A			
4	学級経営 学級担任	1.生徒理解と掌握	3.08	3.26	0.19	B+	B	一昨年、昨年度と同様に、第1回のスコアと比較して向上や安定している要素が多い（生徒理解、行事運営、進路指導）。 1.生徒が抱える問題を見逃さないことを全教員が取り組み、個別面談を頻繁に行うなど生徒の理解に努めた。 2.新校舎を大切に使いわけるための意識が高いが清掃指導や点検に課題がある。 3.定期試験後の面談など、粘り強い指導を行うも十分な成果が出ず、様々な反省や課題が提示されている項目である。 4.生徒自身が行事を楽しむ姿が見られ、教員も楽しむことが出来た。しかし、控えめな生徒との差は広がっているとの指摘もある。 5.「だめなものだめ」から「なぜだめなのか」の指導に変わりつつあり、生徒の生活態度もずいぶんと落ち着いてきた。言葉遣い、自転車マナーは課題が多い。 6.ポートフォリオの作成など、個別の指導が充実してきている。生徒の学園内進学指向に応える環境も整いつつある。 7.昨年度よりも評価が低く、若い教員が保護者との対応に苦慮していることが伺えた。年々難しい対応事例が増えている。	・自転車マナーは校外のことで難しいと思うが、近隣や通学路で迷惑をかけていることが見られるので、定期的な指導をお願いしたい。このことは親の意識向上も必要である。 ・進路指導は本人の意思を大切にしながら進めてほしいと思う。 ・男女生徒ともに、制服の乱れ、言葉遣い等、不快感を与えることなく、中高生らしさは概ね良好と思われる。しかし、ほんの一握りの生徒のマナー違反のために為に全体の印象が悪くなるのが残念だ。 ・授業を通して、生徒は先生方を信頼し、所属する教室の秩序を維持しようという意識を持っていることがわかった。教員の記述を見ると、個々の生徒によってアンバランスがあると感じており、個別のポートフォリオ等を活用して指導している点は評価できるが、同時に生徒は、集団の中でいろいろなことを学ぶ。個人的な課題を、生徒集団（規模の設定は必要にしても）としての課題として位置づけ、集団の一員として課題を達成できるように配慮も必要だろう。 ・若い教員が保護者との対応は大変だと思うが、学年・学校全体での対応を検討して、双方の信頼関係を築いてほしい。
		2.教室内の整理・整頓・清掃・私物管理の指導	3.18	3.16	-0.02	B			
		3.学習意欲を高める指導	3.00	3.08	0.08	B			
		4.行事への取り組み	3.21	3.26	0.06	B+			
		5.校則・マナー指導	3.13	2.95	-0.18	B			
		6.進路指導	3.13	3.24	0.11	B+			
		7.保護者との信頼関係	3.00	3.08	0.08	B			
5	副担任	1.学年業務への取り組み	3.33	3.56	0.22	A+	A	1.2.本校の副担任はベテランが多い。サポート意識が高く、安定した対応で担任や学年を支えている。 3.生徒理解に対しても、積極的な姿勢が見られる。	・担任教員にとって副担任のサポートはとても安心できると思う。 ・ベテラン教員らの新任教員への良きアドバイスを期待する。 ・生徒が先生方を信頼していることの裏付けの一つとして、副担任制度とその運用が効果的になされていることが挙げられる。 ・副担任の役割はとても大きい。今後も更なる学年 クラス運営を期待する。
		2.学級経営への補佐	2.94	3.11	0.17	B			
		3.生徒理解	3.17	3.39	0.22	A			

No.	評定要素	評価項目	自己評価 平均スコア		変化 ②-①	項目別 評価	要素別 評価	教員自己評価に記述された評価の根拠や今後の留意点 (抜粋)	学校関係者評価委員の意見
			第1回①	第2回②					
6	学習指導	1.指導者としての専門的な知識・技能	3.00	3.03	0.03	B	A	1.現在の能力に満足する者は少なく、研鑽に励んでいるとの回答が圧倒的だった(研修など)。 2.アクティブラーニング(AL)の研修で刺激を受けている者が多い。予備校の研修に参加する者が多く、授業方法を模索している。 3.観点別評価を行うため小テストや宿題が教科内で統一実施されることが定着してきている。 4.校務の煩雑さから授業研究に取り組む時間が十分とれないことに悩む教員が多い。 5.集団に合わせて補習をきめ細かく実施したが、教員数が削減されている中でマンパワーも限界に近い。新しいデバイスが必要である。	・教員の意識は感じることができるが、雑務に追われ余裕がないように感じている。 ・教員が研鑽に務められるような組織的な配慮が更に工夫される必要がある。特に授業改善、質の向上については、早急に取り組むべき課題だ。授業研究に取り組みたいが実現できていない旨の記述がみられる。私立学校の利点を活用して勤務時間内に定期的に授業研究の時間を設け、事前検討、事後検討の機会を確保するなど、例外なく教科全員が参加できる枠組みを作るべきだろう。 ・成績向上に繋がる取り組みは大変評価できる。外部講師等の活用及び新しい教材利用等により教員の負担軽減を期待する。
		2.授業力向上の努力	3.17	3.22	0.05	B+			
		3.小テストや課題の実施	3.10	3.07	-0.03	B			
		4.教材研究、教科研修への取り組み	3.08	3.14	0.05	B			
		5.補習などの課外指導	3.02	2.97	-0.05	B			
7	進路指導・ 生徒指導	1.面談等による高い進路目標を持たせる指導	2.90	2.95	0.05	B	B	1.個別的な指導に注力し、学年が上がるごとに手応えを感じている教員が多い。現在よりさらに上の目標をめざすまで育てるのが難しいとの回答も多い。 2.ここでも個別のメニューにより生徒の能力を伸ばそうとする教員の意見が多い。しかし、決して十分でないとの反省もある。 3.本校独自の手帳(計画帳)の提出や面談を通しての心情理解に努めている者が大半である。 4.気になることは必ず保護者に連絡をしているとの回答が多い。ただし、信頼獲得についてはよくわからないとの回答が多く、スコアも低めである。 5.在籍学年により差があるが、ベネッセ等での研修を生徒へ発信し、面接試験対策等に生かしている。 6.一貫コースは検定受検を一斉に行っている。漢検は受験者が増えている。英検と数検はもっと増やしたい。 7.絶えず繰り返して指導しているが不十分であるとする者が大半である。ただし、年間の訓戒以上の指導件数は激減している。 8.私物管理の徹底を指導している教員がほとんどでおおむね良好である。	・各種検定について、生徒のレベルがそれぞれ異なるため担任や教科担当などが学力を把握し、呼びかけを徹底してほしい。 ・ほんの数名の自転車通学者が学校周辺の路地から急に飛び出し、自動車の運転を驚かす場面を見かけることがある。交通安全のマナー遵守を心がけてほしい。 ・学校説明会や入試当日に、学校周辺の交差点でプラカードを持った生徒が朝早くから立って案内誘導している姿は、好感が持てる。朝の挨拶は気持ちよく感じるので、今後も続けて励行してほしい。 ・特に高等学校では、学習させるべき事柄が多く、授業は知識伝達型になりがちだ。生徒の学力向上は、ややもすると個別対応に意識が行きがちだが、本来重要なことは日々の授業を通して、すべての生徒の学力が上げられるようにすることだ。そのためには、授業改善を目的とした授業研究が不可欠である。教科ごとに、集団としての授業で何を身につけさせるのか、学校の実情に合わせて具体的に培いたい事柄を検討し、共通理解をはかり、学校をあげて取り組みたい。 ・個別面談増やこまめな連絡などにより生徒・保護者の信頼が生まれる。指導方法に苦勞が多いかと思うが期待している。
		2.生徒の学力、特性を伸ばす指導	2.82	2.88	0.06	B			
		3.生徒の心情・行動の理解	3.17	3.29	0.12	B+			
		4.生徒・保護者の信頼獲得	2.90	2.98	0.08	B			
		5.進路情報の活用	2.90	3.05	0.15	B			
		6.各種検定(英検、漢検、数検など)の呼びかけ	2.81	2.91	0.10	B			
		7.生活指導(校則・マナー、提出物)	3.12	3.12	0.00	B			
		8.学習環境指導(清掃、私物管理)	3.29	3.22	-0.06	B+			
8	いじめ対策	1.生徒観察、情報収集による兆候発見	3.15	3.25	0.10	B+	B+	1.生徒観察は教員にとって最も重要な部分であるという認識をもって対応している者が多い。心配な生徒には声をかけ続けている。 2.教頭、生徒課長、学年主任と問題を共有して速やかに対応したケースがほとんどであった。	・多忙でも、いじめの問題は重要な事案だ。適切な対応を願いたい。 ・いじめは集団の中では起こり得るものと捉え、いじめが起こる必然を取り除くよう生徒とともに集団の意識改善、関係改善を図っていくことも必要だ。 ・いじめ対策の対応は評価しているが、更なる対策を検討すべきだ。
		2.方針にそった速やかな対処	3.22	3.29	0.07	B+			
9	リスクマネジメント	1.SNSガイドラインの遵守	3.72	3.80	0.08	A+	A+	1.ガイドラインを守る意識がきわめて高い。多くの教員はSNSを利用しておらず、自身の携帯やSNS上での生徒や保護者とのやりとり禁止を守っている。 2.不用意な発言で生徒や保護者を傷つけないよう配慮したとの回答が多いが、リスクへの感受性にはかなり個人差があるように感じる。	・多くの教員が責任を持って意識していると感じている。 ・パワハラ、アカハラ等がないように、常日頃より一層意識すべきだ。 ・情報機器の活用と制限については、具体的なデメリットをどの程度真剣に考えているかにつくる。個別の事例を取り扱った研修が必要だろう。 ・リスクマネジメントは学校運営にも影響がある。危機管理の観点を常に意識してほしい。
		2.学校リスクの理解と安心安全への取り組み	3.45	3.57	0.12	A+			
10	特別活動 部活動、 生徒会活 動、委員 会活動	1.活動目的・目標の明確化	3.28	3.14	-0.14	B	B+	部活の正顧問と副顧問で評価が大きく異なる。昨年と同様に正顧問の自己評価は概ね高く、熱心に取り組んでいる。 1.2.文武両道の認識はとて高く、目的と目標を常に明示して取り組む運動部が多い。技術的指導が出来なくても、礼儀や生活指導はしっかりと行ったという者が大半である。 3.どの部活も生徒の要望を聞きながら運営している。強化部活では保護者の意見傾聴は重要タスクであり、その声を聞くよう努めている。 4.月曜日をオフとするなど週1回の休日についてはどのクラブもよく守り、定期試験前の学習時間についても配慮している。 5.6. 資金については適切に管理できている。	・補習授業などが入ると、部活動と両立がなかなか難しいと感じている。 ・県レベルを超えて全国レベルに近い部活動が多い。指導者の一挙一投足が部員に与える影響は大きいので指導教員は驕ることなく指導してもらいたい。全国大会出場の部が増えることを期待している。 ・保護者や生徒の声を大切にして特別活動が運営されていることが伺える。特に運動部は、毎回新聞紙上で報じられる成果を上げており素晴らしい。一つ懸念することは、高校での活躍を囑望されて入学したにもかかわらず、怪我等の理由で自分の思いを遂行できない生徒もいるのではないかということだ。どのようにケアしていくのか、次なる目標をどのように作らせていくのか等の課題を、組織の中に設けてあると更に安心して取り組めるものと考える。 ・先生方の部活指導のご苦勞には大変感謝している。今後も文武両道の認識を持ち続けてほしい。
		2.技術的指導+生活指導	3.16	3.19	0.04	B			
		3.生徒・保護者の心情理解	2.98	3.04	0.05	B			
		4.週1回以上の休日と学習時間の確保	3.50	3.49	-0.01	A			
		5.用具や備品の管理	3.22	3.21	-0.01	B+			
		6.運営資金の管理・適切な運用	3.45	3.39	-0.06	A			
			平均点	3.17	3.22	0.05			
			昨年度平均点	3.03	3.19	0.16			